

森林やまがた

No.73

2003 4月

目次

循環型社会を担う森林作りと 豊かな暮らしを広げる森林づくりをめざして…2
緑の募金から林業担い手の育成まで…4
緑の少年団活動 楽しかった緑の少年団活動 活動をふりかえって…5
山形県木炭文化協議会の取り組み…6
現地ルポ マツクイムシから徳良湖の松を守れ…7

センタートピックス 平成15年度の研究開発と研修計画…8
木の良さを感じて 木の温もりのある暮らしを…9
山形の古木・名木…10
公共木造施設…10
特用林産物の振興…11
山火事予防運動の実施…12

(表紙写真は西藏王高原の満開のイタヤカエデ)

年度県森林課の主要施策 を担う森林づくりと る森林づくりをめざして

はじめに

森林に対する県民の期待は、山地災害の防止や水資源のかん養、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止、生物多様性の保全、再生産可能な木材の供給、保健休養や教育的な利用など多岐にわたり、これまで以上に多様化・高度化しています。

一方、木材価格の低迷や林業採算性の悪化、過疎化の進行等により、森林が十分に利用されていないことから、スギ人工林の管理水準の低下や松くい虫等病害虫による森林の荒廃が進み、森林がこれまで発揮してきた多面的機能の低下が懸念されて

います。

本県の豊かな森林を健全な状態に保ち、次世代に継承していくためには、森林所有者・林業・木材産業関係者、県民及び行政が、それぞれの役割分担の下に、県民共有の財産として、県民全体で考えていくことが必要です。

国においては、地球温暖化の防止や循環型社会の形成に向けて、昨年「地球温暖化防止森林吸収源十カ年対策」及び「バイオマスニッポン総合戦略」が策定され、健全な森林の整備と木質資源の積極的な活用を推進することとしています。

こうした状況を踏まえ、平成十三～二十二年度までの十年間の整備目標を定めた『山形県森林整備基本計画』に基づき、「循環型社会を担う森林づくり」と「豊かな暮らしを広げる森林づくり」を柱に、総合的かつ計画的な森林・林業施策を展開してまいります。

一、循環型社会を担う森林づくり

環境への負荷が少なく、再生産可能な県産木材を利用することは、林業や木材産業に力を取り戻し、健全な人工林の整備や山村の振興につながり、ひいては資源循環型の地域社会の形成や地球温暖化の防止に寄与

するものであることから、消費者に密着した県産木材の地産地消に取り組み、より一層の需要拡大を図ってまいります。

(一) 県産木材の需要拡大

①やまがたの木で家づくり推進事業により、県内各地の住宅関連業者で構成する「県産木材を利用した家づくりネットワーク」が行うモデル住宅の展示・内覧会・PR活動に対して支援するとともに、「山形の家づくり利子補給制度」を広く県民に知らせ、県産木材による家づくりをよりいっそう推進します。

② 公共建築物の木造化や内装の木質化、間伐材の土木用資材への利用、林業祭等イベントをとおした木材の良さの普及・啓発などを推進し、県産木材の利用の拡大を図ります。

(二) 県産木材の生産振興と安定供給体制の整備

①資源循環型森林施業団地化モデル事業の拡大を図り、間伐材の市場への搬出を促進、付加価値の高いプレドライウッド（葉付き乾燥材）の生産を推進します。

②緊急間伐実施総合対策事業により、間伐を推進するための路網の整備及び間伐材の新たな用途の開発や利用の推進、並びに安定的な供給体

制の整備を図ります。

③山形県間伐材推進計画に基づき、間伐を適切かつ着実に行うとともに、間伐材の土木用資材や地域産業等への利用を促進します。

(三) 林業生産基盤等の整備

①森林の整備・管理に欠かせない林道や作業道の整備を推進します。とくに、間伐等の森林施業を緊急に要する森林に重点的に整備します。

その他、高性能林業機械の導入やオペレーターの養成等を支援します。

(四) 木質バイオマス資源の有効利用の推進

①木質バイオマス推進事業により、県内における木質バイオマス資源の賦存量及び活用方法を調査し、木質バイオマス資源活用計画を策定します。また、木林業界が取り組むペレットを使用するストーブやボイラーの普及定着に努め、未利用木質資源の活用を推進します。

(五) 森林管理・経営の担い手の育成と雇用の創出

①緊急雇用対策として実施している里山景観創成事業等、森林整備による雇用の創出を図るとともに、国が行う「緑の担い手育成対策事業」に取り組み森林組合に対して、研修の場となる森林を斡旋する等して雇

循環型社会

豊かな暮らしを広げ



、用対策を推進します。

② 林業担い手育成対策事業等により、林業労働力確保支援センターと連携しながら、林業従事者の養成、確保に努めます。

③ 意欲ある林業経営者・事業者等の育成を図るとともに、森林組合経営改革推進事業により、森林組合が行う経営改善計画の策定を支援する等「山形県森林組合改革プラン」の着実な実現を図ります。

二、豊かな暮らしを広げる森林づくり

森林の持つ多面的機能を高度にかつ持続的に発揮させるため、長伐期、複層林等の循環型森林施業の導入を

促進し、持続的な林業経営の確立を図るとともに、流域の特性に応じた多様な森林の整備を図っていきます。

また、里山における森林オーナー制の推進、ボランティアによる森林づくり、さらにはグリーンツーリズムとの連携を図るなどして森林と人との様々な関わりを再構築しながら、「都市と農山村の交流」や「県民参加の森林づくり運動」を推進し、県民全体で森林を支える仕組みの構築を図ります。

さらには自然の力を活かした山形らしい特用林産物の生産振興を図るとともに、森林資源の総合利用をとおし豊かな山村づくりに努めます。

(一) 多様な森林の整備・保全

① 山地災害の防止や水資源のかん養、良好な生活環境の保全等に大きな役割を果たしている保安林の適正な管理、並びに治山事業、造林事業、水源の森づくり事業、里山景観創成事業等による多様な森林整備を計画的に推進します。

② 森林病害虫防除事業、出羽庄内公益の森整備事業及び松林景観保全事業等により、海岸林及び里山の森林の保全を図ります。

③ 国の地球温暖化防止対策を受け、「山形県森林吸収源対策推進プラ

ン」を策定し、森林吸収による二酸化炭素三、九パーセント削減に向けた健全な森林の整備に努めます。

④ 森林整備地域活動支援事業により、森林施業の実施に不可欠な現況調査や境界の確定等の地域活動を支援し、適切な森林施業を推進して森林の有する多面的機能の発揮を図ります。

(二) 県民参加の森林づくり

① 全国植樹祭を契機とした「県民参加の森林づくり運動」をさらに発展させるため、本県の森林を県民共有の財産として「公益の森」と位置づけ、県民各層の協働による恵み豊かな森林づくりを基本理念とする

「やまがた公益の森構想」を提唱し、県民の幅広い参加の下に、水源の森づくり、企業の森づくり、ボランティアの森づくり等を推進します。

② 小中学生を対象とした森林体験学習の推進、みどりの募金及び環境緑化事業の充実、並びに緑の少年団の育成強化等に努めます。

(三) 森林空間総合利用の推進

① 「遊学の森」の整備を進め、一部をオープン、県内四つの県民の森における森林体験学習、レクリエーション等県民の心身の健康増進や交流の促進を図ります。

② また、ふるさと森林オーナー推

進事業により、里山の利活用をとおして適正な維持管理や中山間地域の所得の向上を図ります。

(四) 山村地域の振興

① 新たに創設した山の恵み地産地消推進事業により、特用林産物の生産体験施設や直売施設の整備、きのこ消費拡大キャンペーンなど、山地の活性化を図ります。

② 林業・木材産業構造改革事業により、県産木材を使用した公共施設や特用林産物の生産施設の整備を支援し、山村振興の活動基盤の充実を図ります。

(五) 森林管理技術等の研究開発と普及指導

① 長期育成循環施業や海岸林の復元改良、病害虫防除等森林整備・管理に係る技術の開発、きのこや山菜等の優位品種の選抜、栽培技術の確立を図る試験研究を推進するとともに、技術研修会の開催等を通じてその成果の速やかな普及・定着を図ります。

おわりに

これらの諸施策の実施に当り、効果的かつ効果的な事業運営に努めるので県民の皆様の一っそうのご理解とご支援をお願いします。

〔県森林課〕

緑の募金から林業担い手の育成まで

(財)県みどり推進機構と(財)県林業従事者育成基金の統合なる

財団法人山形県みどり推進機構は財団法人山形県林業従事者育成基金と、本年四月一日に統合し、森林・林業の幅広い分野を担う総合的な公益法人として、新たなスタートを切りました。

(統合に至る経緯)

近年、地球温暖化対策など国民の森林に対する期待が益々高まってい



平成15年2月17日、覚書取り交わし

く中で、両財団がこれまで行ってきた緑化の推進や森林・林業を支える林業の担い手の育成確保は、今後いっそう重要性が高まり、これまで以上に推進していく必要があります。しかし、両財団の基金の運用については、近年の預金金利の低下やペイオフなどの預金保護の問題などにより資金運用と取り巻く環境の変化により厳しい現状にあります。

また、県みどり推進機構が行っている緑化事業についても減少する傾向にあるなど、両財団とも厳しい経営環境の中で、効率的な運営を図ることが急務となっていました。

平成十三年度に改定した県の「行政改革大綱」において、効率化の観点から両財団の統合が示され、これを受け、平成十四年度六月に両財団と県を構成員とする統合推進協議会(会長今井農林水産部次長)が設置され、統合についての具体的内容が詰められました。両財団がお互いの立場を尊重しながら前向きに検討を

進める中、同年十二月に協議会としての統合案が取りまとめられました。これをもとに、本年一月に両財団の理事会において統合が承認され、さらに、二月には両財団の間で統合についての覚書が取り交わされ(写真)、今日に至りました。

(統合財団の概要)

両財団の統合は、経営の合理化及び効率化を図るために行うものです。統合の方法としては、一方が解散し一方が存続する方法が最も合理的であることから、県林業従事者育成基金は県みどり推進機構に事業と財産の一切を譲渡し、本年三月三十一日に解散しました。平成五年に設立された当基金は十年の歴史をもつてその幕を閉じ、その使命を統合財団に託すことになりました。

統合によって基本財産等は、旧県みどり推進機構の七億二千八百万円に県従事者育成基金の二十三億八千万円が加わり、総額三十一億八百万円となっています。

統合財産の名称は存続財団の名称そのままとし、山形市長谷堂にある事務所についても、そのまま活用することになりました。

新県みどり推進機構の組織体制は、これまでの三課二事務所体制を継続しながら、従来の緑推進課を推進育成課として充実を図り、林業従事者育成基金がこれまで取り組んできた林業労働に係る労働災害の防止、福利厚生の実現や新規参入者の定着など、林業従事者の育成・確保をさらにいっそう推進することになります。

今後は、これまで両財団が行ってきた事業をさらに発展させ、森林・林業に係る幅広い事業の展開を図りながら、森林の整備や都市・農山村の緑化並びに、これを支える林業従事者の育成確保を図り、森林の多面的な機能の高度発揮とみどり豊かな生活環境の整備を推進することとしております。

なお、平成十年度に県林業従事者育成基金に設置し、これまで実施してきた林業労働力支援センターについては、平成十五年四月からは、(財)県林業公社に移し、公社が経営する分収林の活用などによりいっそうの充実を図ることにしています。

〔県森林課〕

楽しかった緑の少年団活動

佐藤 由美

私の学校では、長い間、五年生が緑の少年団活動に取り組んできましたが、今年から四年生が活動することになりました。

入団式では、団員の帽子をいただいた後に、シイタケの菌打ちと記念植樹をしました。きのこの菌を打つのは、穴を開けていただいたので、思ったよりも簡単にできました。記念植樹の木はヤマボウシでした。

活動報告

山形市立東沢小学校
4年 佐藤 由美
石川 聡

緑の少年団

楽しかった緑の少年団活動 活動をふりかえって

全国植樹祭はみんなに自まんでできる経験です。山形市の少年団の代表として参加

加できたことは、とてもラッキーだったと思います。天皇陛下をお迎えしたときは遠くでよく見えませんが、一生懸命に旗をふりました。市の植樹祭では、詩の群読を発表

して、市長さんからもほめていただきました。代表の人が植樹した後に、全員が一本ずつ植えました。

秋にはきのこの汁を作りました。最初にみんなできのこをとりに行きました。遠藤さんに教えていただきました。なめこをとりましたが、冷たくて又

いて、一年間、楽しく活動することができました。

活動をふりかえって

石川 聡子

今年最初の活動は、木に穴を開けて、きのこの菌を打ち込むことで



山形市植樹祭で記念植樹



全国植樹祭で記念植樹



おいしいきのこの汁

次の活動は金山町での全国植樹祭への参加です。なんとそこには、天皇陛下と皇后陛下がいらっしゃったのです。私たちの席からは、とても小さくしか見えませんでした。植樹祭の会場で見えたサクラランボが、青々とした葉の中に包まれたまんまるのルビーのように光っていたことが忘れられません。

そのほかにも、市の植樹祭で詩の群読をしたり、きのこの汁を作って食べたりもしました。

今年の少年団活動をふりかえってみると、とても大切なことを学んだことに気がつきました。それは、私たちが植樹した小さな木が、まっすぐに、青々と育っていくことができるように、自然や緑を守っていかなければならないということです。

た。その日は入団式もあったので、少年団の帽子もいただき、ヤマボウシの植樹もしました。ヤマボウシは食べられる実をつける先生が言っていました。今年植えた木に実がなったかどうかはわかりませんが、いろいろな方から協力していただきました。

十年後、二十年後、そしてもっともっと未来にも、私の思い出の緑たちを大切にしていきたいと思っています。

賞	部門	部	氏名	市町村
最優秀賞	山形県知事賞	黒炭・白炭	白炭割物	渡部岩次 飯豊町
	西置賜林業振興協議会長賞	創作	創作	山田 静 西川町
優秀賞	山形県森林組合連合会長賞	黒炭・白炭	白炭丸物	嘉藤里司 飯豊町
	西置賜ふるさと森林組合賞	黒炭・白炭	黒炭丸物	舟山清一 飯豊町
優良賞	山形県木炭文化協議会長賞	黒炭・白炭	白炭丸物	大石昭吾 飯豊町
		黒炭・白炭	白炭割物	渡部利男 飯豊町
		黒炭・白炭	黒炭丸物	渋谷岩夫 長井市
		木炭	木炭一般	後藤次男 村山市
		創作	創作	渡部九一 飯豊町
奨励賞	山形県木炭文化協議会長賞	黒炭・白炭	白炭丸物	加藤吉男 東根市
		黒炭・白炭	黒炭丸物	阿部勇志 櫛引町
		木炭	木炭一般	須藤和幸 村山市
		創作	創作	船見捷士 鶴岡市

炭焼き体験会
木炭講演会の開催

山形県木炭文化協議会の取り組み

近年、木炭は燃料としての資材のほかに、調湿、脱臭、浄水、防虫効

果やマイナスイオンの発生など健康環境改良資材として注目されています。この「木炭」の生産技術の向上、木炭と里山との関わりや利用方法に

対する理解、木炭の消費拡大などを図るため、二月十四日、十五日白鷹町ふるさと森林公園内(パレス松風・炭焼小屋)で、山形県木炭文化協議

会(会長井上俊雄)主催、後援により品評会や体験会、講演会が開催さ

れました。

●第九回山形県木炭品評会

平成六年度から開催されている品評会も今年で九回目になりました。今年度は例年の白炭(丸物、割物)、

創作の部に加え、新規生産者や地域での炭焼き活動などから気軽に出品できるような木炭一般の部を新たに設けて募集を行い、西置賜のみならず村山、庄内地域から三十六点の出品

を含めて十三点の入賞作品が選ばれました。

●炭焼き体験会、木炭講演会

冬の置賜にはめずらしく晴天に恵まれた二月十五日、炭焼き体験が炭焼き小屋で行われました。

当日は森林オーナーや小学生をはじめ、置賜、村山地区から四十一名もの参加があり、講師に林業士の海

老名和好さん、細谷芳弘さん、鑑賞炭焼きの菅野ちるさんを迎えて、三班に分かれて白炭、黒炭、オイル缶窯の炭焼き体験をローテーションで行いました。

白炭窯では、千度Cを超す赤熱の窯から「熱い」「怖い」などと声を上げながら、真っ赤な炭を引出し、消し粉をかける消火作業を行いました。黒炭窯では、頭がぶつかりそうな窯の中に入り、黒くなりながら黒炭を窯から出し、カッターで長さを切りそろえる作業を行いました。

オイル缶窯では、窯の製作方法の説明の後、炭材の詰め込み、焚き付け、炭化などの工程について作業を



がありました。二月十四日の審査会では、審査規程に基づき、形状や品質、独創性など厳正審査の結果、白炭割物で初の受賞となった県知事賞



行いました。

午前中という限られた時間のため、炭焼き工程の一部分しか体験できませんでしたが、参加者は体験を通じ、白炭と黒炭の違いや炭材(原木)の伐り出し方法、煙の色による炭化の判断、木酢液の採取方法などについて熱心に質問していました。

体験会に引き続き、午後にはパレス松風において、約百名の参加者を集めて木炭講演会が開催され、木炭や木酢液の特性や活用方法についての話がありました。

また、会場では木炭品評会の表彰式と作品の展示、さらには木炭に関するパネル展示なども行われました。〔置賜総合支庁西置賜森林整備課〕



炭焼き体験

松林保全研修会開催

マツクイムシから徳良湖の松を守れ

はマツクイムシの被害を四年間は受けないこととなります。しかし、このようにマツクイムシの侵入を防いで松を守る方法はありますが、薬剤の高価なことから、地区を限定しての使用状況にあります。現在の徳良湖の松林は、徳良湖と

県内では、マツクイムシの被害が増加傾向にあり、



薬剤の注入の様子

平成十四年度には尾花沢市に被害が拡大しました。

市内にある徳良湖は県内外からたくさんの人々が訪れ、周辺の松林は景観上も大切なものとなっています。現在、徳良湖の松は被害を受けていませんが、近接した被害地からマツクイムシが侵入することが心配されます。

そのため、マツクイムシの侵入を防いで松林を守る技術の習得と、あわせて徳良湖の歴史について学習しましたので、その状況を紹介します。研修会には、森林所有者をはじめ林業士、森林組合職員、市町職員、造園業者等三十四名の参加があり、関心の高さがうかがえました。最初に徳良湖の歴史について、尾

花沢市歴史文化専門員の梅津保一氏より講演がありました。徳良湖が誕生したのは今から八十年前の大正十年ですが、米の収穫量を高めるため、生産力の低い畑地を開田し、山林、

原野も可能な限り開拓したことから、大規模なかんがい用水として徳良湖が築堤されたことなどを聞きました。工事は延べ七万人を動員する大工事で、そこで歌われた土つき歌が後の花笠音頭となったとのことです。

また、周辺の松林もその時に植栽されたもの、水源のかん養や景観保全のため整備されてきたとのことで、先人達が苦労して植えた松林を守ることの重要性が理解されました。

次には松林を守る技術の研修では、薬品メーカーから松の木がどのようなマツクイムシの被害を受けるか、その生態についての説明と、樹幹に薬剤を注入し、マツクイムシの被害を防止する方法について説明を

受けました。

その後、林業改良指導員から病害虫防除の制度的な説明を受け室内研修を終了しました。

現地研修では、参加者が三つの

現地ルポ

グループに分かれて実際に松の木に薬剤注入用の孔を開け、注入剤を注入しました。

薬剤が木の全体に届くように孔の位置、角度、深さに注意し、一本一本真剣に作業を行いました。これにより、



徳良湖の歴史について



実技研修

注入された松の木

〔村山総合支庁北村山森林整備課〕

一体的に観光、レジャー、憩いの場として利用されています。また、最近になって温泉の試掘にも成功し、徳良湖を訪れる利用者はますます増大することが予想されます。

このような中、これからも、歴史の背景についても配慮しながら、地区のシンボリックな松を守るために尽力しなくてはならないと再認識するところとなった研修会でした。

平成十五年度の研究開発と研修計画

県森林研究研修センター

は次のとおりです。

一、県産材の用途を拡大するための

技術開発

県産スギ材の利用拡大を図るため、

木材の強度特性を簡易に測定する方法を開発するとともに、水回り部への使用に当たっての耐久性を把握し、材質特性に応じた構造材や内装材への活用等、機能發揮のための利用開発を行います。(新年度より新潟、福島との共同で新たに取り組み課題です。)

三、森林の多面的機能の維持・増進

タケの安定生産技術の開発等を行います。

多様で持続可能な森林を整備し、森林機能の維持増進を図るため、多様な広葉樹林の育成・管理技術を開発するとともに、長伐期施業の環境保全機能等に対する評価と地域に適合した施業体系の確立を目指します。また、庄内海岸被害マツ林の早期復旧のため、多様で持続可能な海岸林への早期誘導技術を開発するとともに、マツノザイセンチュウ抵抗性苗木の養成技術の開発を行います。

四、森林被害防止技術の確立

ナラ類の集団枯損が生態系へ与える影響を把握し、里山の生態系保全に適合する防除方法の開発と改良を行い、森林整備のあり方も含めた防除技術の体系化を図ります。

◆受託研究・調査◆

野生鳥獣被害を軽減するため、森林が果たすべき機能を重視した整備手法を調査し、具体的な施業指針を作成するための受託研究を実施します。

◆研究開発◆

センターの研究開発は「山形県農林水産研究開発方針」に基づき実施されており、今年度の主な研究開発

平成15年度研究開発・受託課題

1. 県産材の用途を拡大するための技術開発

スギの材質特性に関する調査研究(県単)	H15~H17
---------------------	---------

2. きのこと・山菜の優良品種の開発と栽培技術の確立

ニュータイプきのこ資源の利用と生産技術の開発(国庫)	H8~H15
施設栽培きのこの育種と安定栽培技術の確立(県単)	H11~H15
山菜の安定生産技術の確立と高品質系統の作出(県単)	H15~H19
特用林産物の栽培化に関する調査(県単)	H13~H15

3. 森林の多目的機能の維持・増進技術の開発

長期育成循環施業に対応する森林管理技術の開発(国庫)	H11~H15
多様な広葉樹の育成・管理技術の開発(国庫)	H12~H15
庄内海岸林における主要広葉樹による復元・改良技術の確立(県単)	H15~H19
マツノザイセンチュウ抵抗性個体苗木の養成技術の確立(県単)	H17~

4. 森林病害虫の原因解明と被害防止技術の開発

ナラ類集団枯損の実用的防除法の開発(国庫)	H13~H15
-----------------------	---------

5. 受託課題

野生鳥獣被害軽減のための森林整備の手法に関する調査(森林総研)	
(予定) 森林吸収源計測、酸性雨モニタリング調査(森林総研)	
(予定) 産業用無人ヘリによる松くい虫予防散布試験(農林水産航空協会)	
(予定) 人工一斉林の針広混交林への誘導手法開発(森林総研東北支所)	

平成15年度研修・講習計画

名 称	予 定 時 期	募集人数
林業架線	7月2日~7月18日	20名
車両系建設機械	6月19日~6月27日	20名
林業教室(森林保護)	6月	20名
林業教室(特用林産)	H16年1月	10名
林業士・指導林家研修	8月	30名
森の案内人養成研修	8月、9月	50名
教職員等森林環境教育研修	6月、8月、10月	15名
森林講座・試験研究成果報告会	11月	120名
夏休み子どもサイエンス	7月	15名
愉快的な山づくり講座	7月、9月、10月	20名

す(森林総研)。また、地球温暖化対策の基盤資料となる森林の炭素固定量把握のための調査と、酸性雨影響の調査を行う(森林総研)ほか、産業用無人ヘリによる松くい虫防除散布試験(農林水産航空協会)、人工一斉林から針広混交林への誘導手法を開発するため

◆研修・講習計画◆

左表のとおり、年間を通じ、林業従事者、後継者、教職員、一般県民、児童生徒等を対象に、各種研修、講習会を計画しています。お待ちしております。

木の良さを感じて 木の温もりのある暮らしを

一、木と健康を考える

木材は見た目に優しく、肌触りがよく、柔かい響きや気分を落ち着かせる香りを持ち、木製の置物やおもちゃ、食器などは、心をなごませストレスを軽減してくれると言われる。最近では計測技術も発達し、今まで感覚的にのみ言われてきた人体の木材への生理的反応について、客観的な評価が可能となり、木材が暮らしの中で健康の維持増進に果たす役割が科学的に明らかにされつつある。

木材への手触りと快適性

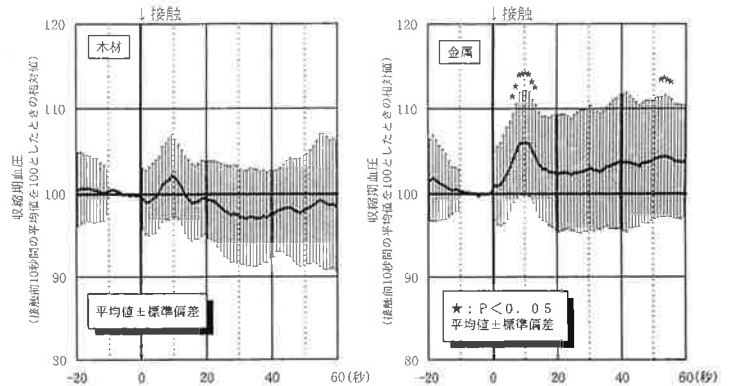


図1 木材への接触による収縮期(最高)血圧の変化
図2 金属への接触による収縮期(最高)血圧の変化

(出典：第48回日本木材学会大会研究発表要旨集、p216、(1998))

今回は、データをもとに木材の良さを紹介したい。

〈木材は疲労を軽減する〉

木の温もりと人への影響について調査したところ、木材に接触した場合は、ストレスの状態を示す血圧の変化が低下し(図1)、人体がリラックスすることが分かる。それに対して金属への接触は、血圧を上昇させて(図2)人体にストレスを与え、木材に厚めのウレタン塗装を施すと人は金属に近い生体反応を示す。また木の香りを吸収することによる人体に与える影響を調べると、血圧は

インフルエンザによる学級閉鎖の校舎構造差

学級数	木造校舎	RC造校舎	RC内装木質校舎
全学級数(校)	287	435	170
閉鎖した学級数(校)	31	99	22
閉鎖率(%)	10.8	22.8	12.9

図3 インフルエンザ等で学級閉鎖した数 - 3年間の合計 - (1990年から3年間)

は大きい。を軽減させる働きがあり、この意義

収縮期(最高)において低下する。以上から、木の温もりや香りは人体に対して鎮静的に作用することが分かる。

〈木材は健康を左右する〉

今年猛威をふるったインフルエンザと木造施設のおもしろい調査があるので紹介する。

インフルエンザにより学級閉鎖した数を三ヶ年調査した結果、木造校舎とRC(鉄筋コンクリート)造校舎では、RC造校舎は二倍の学級閉鎖率になっている。また、RC造校舎の教室を木材で内装を施すと学級閉鎖率が木造校舎並に下がる(図3)。

木材のある生活は、ストレス社会といわれる現代社会において、人間の生体を鎮静化させてストレス状態を軽減させる働きがあり、この意義

二、間伐材の展示販売施設

県では、間伐材等利用促進モデル事業により、山形県森林組合連合会と連携し、間伐材の簡易展示販売施設を開発した。

ログハウス風の同施設は、ロータリーで仕上げた三面落とし材を使用し、アンカーボルトで止める工法であることから、素人でも組み立てられるようになっていた。開発した施設は、二坪及び三坪タイプがあり、購入しやすい価格となっている。

平成十五年度の新規事業である山の恵み地産地消推進事業の補助対象施設にもなっており、間伐材の需要拡大にも貢献できるものと期待される。

〔県森林課〕



間伐材の展示販売施設



(案内略図)



根元の回り五、五メートル、樹高二十二メートルのシロヤナギ。
 言い伝えによると、江戸末期石清水の庄司五兵衛という人が、昼時に弁当の箸代わりに使った柳の枝を差したのが成長したとされていたが、腐植した樹木の一部の年輪を調査したところ、一センチに四本の年輪があったことから、四〇〇年は有に越えていることが想定される。
 樹木別幹囲で、柳では現在日本一の樹木。昭和六十一年七月二十二日村指定天然記念物に指定。
 〔県みどり推進機構〕

公共木造施設 ⑬

『樽石大学トイレ』

村山市大字樽石

完成年度 平成13年度
 床面積 12.06㎡
 構造 木造平屋建
 問合せ 村山市農林課
 特長 生涯学習の場として建設された通称樽石大学の一角にあり、喜ばれている。



特用林産物の現状

きのこ、山菜、木炭等の特用林産物の生産は、山村地域における重要な産業のひとつとして、地域経済の安定と就労の場の確保に大きな役割を果たしている。

近年の生産状況については、きのこは生産者数の減少、価格の下落等により生産量、生産額ともに減少傾向にあるが、山菜、木炭等はほぼ横ばい状態にある。また健康志向の高まりから、きのこ類の消費は拡大傾向にある。

特用林産物をめぐる情勢

特用林産物の生産は、山村での複合経営の品目として有望であるが、輸入量の増加、産地間競争の激化、生産者の高齢化等が進み、一段と厳しさを増している。

一方、農業問題やBSE騒動等が発生し、食品に対する消費者の不安が高まり、特用林産物に対しても安全・安心が求められている。

またその収穫体験等は、都市住民の余暇活動や子ども達の体験活動として人気が高まっており、特用林産物に対するニーズは多様化している。

特用林産物の振興方針

「山形県特用林産物振興基本計画」に基づき生産振興と都市住民等のニ

ズの多様化に対応するため、従来型の生産拠点整備を中心とした取組みを転換し、豊かな自然力を活用した、安全・安心を基調とする信頼される特用林産物の生産を推進する。

さらに、山形県きのこ振興会やおいしい山形推進機構等と連携を図りながら、グリーンツーリズム体験や都市との交流を通して消費者に直接PRし、県産特用林産物の評価向上と地産地消を推進する。

特用林産物の振興

交流と体験を通して

地産地消を推進

平成十五年度の主要な取組み

一、山の恵み地産地消推進事業

● おいしいきのこ消費拡大推進事業
県内各地域における県産きのこ等の消費拡大を推進するため、県

内温泉旅館と連携した料理発表会、学校給食調理担当者等の調理教室、学校でのきのこ給食及び展示即売会等の実施

● 山の恵み交流体験推進事業
間伐材を活用した産地直売施設

や交流施設、自然力を活用した生産施設、無農薬栽培に必要な施設等を整備（グリーンツーリズム体験や消費者との交流に活用）

二、特用林産地振興推進事業

特用林産物振興方針の検討、きのこ・木炭の品評会及び消費拡大活動に対する支援

三、普及指導関係事業

● 林業後継者育成対策事業
林業教室（特用林産栽培技術の

乾留させたものであることから、有機農産物の日本農林規格において、土壌改良剤としての使用が認められている。

また、木酢液は病害虫防除効果等があると言われ、最近の有機農業への関心の高まりから注目を集めているが、樹種や燃焼温度により性状が異なり、含有する生成物が多様にわたるため、公的機関での試験例が極端に少なく客観的評価は困難で、農薬登録もされていない。

この三月に施行された改正農薬取締法では、登録された農薬等以外の農薬の製造、流通、使用を禁止するとしているが、これらの規制にかからないものとして「特定農薬」を指定している。

特定農薬とは、「原材料に照らし農作物等、人畜及び水産動植物に害を及ぼすおそれがないことが明らかなものとして農林水産大臣及び環境大臣が指定する農薬」である。

木酢液は、特定農薬の候補に挙げられているが、農薬としての効果が不明であるため、「判断保留」となり、公的機関が防除効果を確認するまでの間は、使用者である農家が自己責任のもとで使えることになっている。

〔県森林課〕

山火事予防運動の実施

『温暖化 防ぐ森林 守ろう 火から』

実施期間

平成15年4月23日(水)～5月31日(土)

「温暖化 防ぐ森林 守ろう 火から」を統一標語に、平成十五年四月二十三日から五月三十一日まで、山火事予防運動を実施します。

本運動では、県内各地区の関係機関が連携し、広報(新聞)紙を通じての呼びかけ、ポスターの掲示、のぼり旗や横断幕の設置など、山火事防止の啓発に努めます。

恐ろしい山火事の原因の多くは火の不始末であることから、森林所有者、入山者、地域住民の方には、次の項目について御協力をお願いします。

- 一 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所ではたき火をしないこと。
 - 二 たき火の場所を離れるときは、完全に消火すること。
 - 三 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと。
 - 四 火入れの許可は必ず受けること。
 - 五 たばこの吸いがらは必ず消すとともに、投げ捨てしないこと。
 - 六 火遊びはしないこと。
- 春は空気が乾燥し、強風の日が多いうえ、雪解け後の農作業など、火を扱う機会が増えることから、火災が多発する傾向にあります。
- この時期の火の取扱いは、とくに注意しましょう。
- 〔県森林課〕

21世紀の緑を美しく、
安らぎと輝きの森林と水を求めて



社団法人

山形県林業コンサルタント

理事長 菅原 六郎

山形市松栄一丁目5番41号 TEL (023)647-1800

FAX (023)647-1801

森林やまがた4月号 平成15年4月1日発行 通巻第73号

監 修 山 形 県
編集・発行 山形県森林協会
〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内
TEL 023-631-6566 023-622-8823
FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>

古紙配合率100%再生紙を使用しています